山本寛斉氏特別講演

# 「人間賛歌」

（司会／川上 玲子氏）　（講師／山本 寛斉氏）

1997年５月31日㈯、東京ファッションタウンビルで、総会終了後、会員・学生・プレス関係を含む100名程の参加者で行われた。

今回の特別講演は、モスクワで行われた〝ハローロシア〟とベトナムのハノイで行われた〝ハローベトナム〟の両スーパーショーをテーマになされた。〝ハローロシア〟は、６年程前モスクワの赤の広場で12万人という人が集まり、ビッグエッグの２倍程のスペースで行われたショーで、結果として第２次世界大戦後、あの赤の広場を外国人が使い、文化事業として50年間で最大のショーであったと、今だに言われる程大きな記憶に残るスーパーショーであったと……。当時ロシアは政権がゴルバチョフ氏からエリツィン氏に代わる時で、現地の日本大使館から招待を受けロシアに行くことになった訳であるが、初めてロシア国民に会った印象は、３つ程の特長があった。まず１つは、大変お洒落であったこと（相当な水準のお洒落）、それから２つ目に私の話しによく笑うこと、３つ目に綺麗な人が非常に多かったことを記憶している。又、このスーパーショーは、電気代が２晩で２千万円かかる規模で、なかなか外国に持って出られなかった。交渉から実現まで１年半という長い準備期間を必要とした。パリコレクションの行き帰りにモスクワに寄っては、外務省・文化大臣・モスクワ市長などに「赤の広場を借して下さい。」というお願いをはじめて８ケ月後承認となった。一方、このイベントをやるには、最低２億円という資金が必要で、最初、広告代理店などにお願いしたが、うまくいかず、自分で資金を集めようと決意した。いわゆる、企業のトップにアプローチをした。そのために手紙を書くことにし、トップに届く手紙をどのようにしてつくるかを考えた。内容は、日頃デザイン画をかいている何十本ものカラーペンで画洋紙一枚を便箋ととらえ雑誌の写真をコラージュし、世界に一枚しかない便箋をつくり、それに色々なカラーペンで文章をかいた。夏は五時に起床、冬は六時に起床して、景気が落ち込んでいたので、こちらの希望をいうべき会社をさがし、つまり新聞などに大きい面積で広告を出しているところは、まだ元気かもしれないなどと希望先をさがした。体調をととのえ文面に誠意が表われるよう努めた。朝は八時から手紙を書き土・日曜も、もちろん夏休み、冬休みも一切休まず実行した。結果、10通の手紙を出して会ってもいい、話しを聞いてみようかというのが10件中７件であった。それでお金が実際動いたのが、その半分であった。ということは、10通中３通が承認になった訳で、50通で15件、これは数を出すしかないという結果で大変な作業であった。（本業は午後から行った。）うまく進まない日が続くと本当にやれるのだろうかと、夜も眠れない日々が続くこともあった。それから１年半かけて、スーパーショーは実行されたのである。ビデオテープには、ロシアの人達が本当に喜んでくれた笑顔がたくさんショーの後に映り、それと同時に「ありがとう」「スパテーバ」という声が12万人の人達から…… 気分は風呂に百回ぐらい入った、爽やかな気分で、感動で涙が出るとかいうのは一切なかった。「こんなことがやれてしまった！」ということを自分で驚くと同時に、